

2022年12月

一般社団法人 全国建設業協会 御中

一般社団法人 日本ガス協会
技術部内管グループ

工事によるガス管損傷の防止について（お願い）

拝啓 時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

さて、弊協会では、お客さまが安心して快適に都市ガスをお使いいただけるよう、保安の維持向上に向けた取り組みを実施しております。

毎年、解体工事、設備工事などを起因とするガス管損傷事故が多く発生※（次頁ご参照）しております。このような状況を踏まえ、貴協会の会員様へガス管損傷事故防止のお願いをさせていただくものです。

つきましては別添資料のとおり、ガス事業者から各都道府県支部様へ本取組みのご説明に訪問させていただきたく、ご理解賜りますようお願い申し上げます。

敬具

【ガス管損傷事故について】

万一、工事でガス管を傷つけてしまった場合には、単なる損傷にとどまらず、漏えいしたガスにより火災、爆発等の重大な事故を引き起こす恐れがあります。事故を未然に防ぐためには、敷地内工事に際してガス管の位置をご確認いただくことが肝要です。もし、ガス管の位置が分からない場合は、工事開始前に地域の都市ガス事業者へお問い合わせください。必要に応じて工事立会等をさせていただいております。

各所で配布させていただくパンフレットが事故防止の一助となれば幸甚です。

【パンフレットについて】

- ・掘削・解体・改装工事におけるガス管損傷防止パンフレット（経済産業省 発行）
https://www.gas.or.jp/pdf/gas-pipe/safety_check.pdf
- ・「ガス管調査窓口検索サイト」利用説明パンフレット（日本ガス協会 発行）
https://www.gas.or.jp/pdf/gas-pipe/how_to_use.pdf

【お問い合わせ先】

一般社団法人 日本ガス協会
技術部内管グループ 馬淵 岩崎
TEL：03-3502-0646
FAX：03-3502-0370

※2021 年のガス管損傷事故（出典：2022 年 3 月 11 日ガス安全小委員会）

他工事による事故報告件数は、前年に比べて 10 件減少して 105 件となった。また、負傷事故は、前年から 4 件減少し 3 件であった。

現象別にみると、「避難・交通困難」が、前年に比べ 1 件減少したものの、89 件と引き続き最多となったほか、「供給支障」は前年から 7 件減少し 11 件であった。「漏えい着火・爆発」は前年同数の 14 件であった。また、ガス会社に対する事前照会がなかった事案が、81 件あり、29 件減少したものの他工事による事故の約 77%を占めている。

なお、他工事の発生した場所をみると、需要家敷地内で発生した事故が 82 件であり、他工事事事故全体の約 78%を占めた。敷地内で発生した事故のうち、解体工事中の事故が 28 件と最も多く、次いで水道工事が 9 件と多かった。また、事前照会ありにもかかわらず発生した事故の原因としては、事前照会時と異なった作業を連絡せずに実施したことによる事故や、ガス管近傍箇所での機械作業によりガス管を損傷したものなどがあった。

表－10 現象別他工事による事故

（単位：件）

	2017 年	2018 年	2019 年	2020 年	2021 年
供給支障	15	15	29	18	11
生ガス中毒・酸欠	0	0	0	0	0
漏えい着火・爆発	16	7	17	14	14
避難・交通困難（※1）	78	74	110	90	89
他社工事事事故計（※2）	101	93	148	115	105
事前照会あり	25	26	25	5	24
事前照会なし	76	67	123	110	81

約 8 割が事前照会なし

※1 交通困難は、ガス漏えい又はそのおそれによる周囲への被害を防止するための措置として、何らかの交通規制を行ったもの。

※2 現象については重複があるため、合計とは一致しない。

事故原因は様々、発生場所の約 8 割が敷地内

参考－1 発生場所・原因別にみた他工事の事故件数（2021 年）（単位：件）

	敷地内	道路	合計
解体工事	28	1	28
建物改修・改装工事	7	0	7
水道工事	9	6	14
下水工事	3	6	9
外構・門扉工事	3	0	3
整地・造成工事	6	0	6
建物建築工事	4	2	4
駐車場等工事	3	0	3
基礎工事	3	1	3
道路舗装・改修工事	0	3	3
土質調査・地盤改良工事	3	0	3
設備工事	3	0	3
需要家による工事	7	0	7
その他	3	9	12
	82	28	105

※ 敷地内／道路の分類については重複があるため、合計とは一致しない。